

ふうちゃんのうた集

あさの 風子

秋-冬 編

目次

秋 思うままに うたう 1

深まりゆく秋 2

空の表情 5

さんぽ道 8

冬 寒さの中で 9

十二月 12

新年 13

秋 想うままに うたう

春から続けていた歌を、秋になっても続けています。

夏に、足を捻挫したせいで、今は、毎日歩かないのですが、それでも週に一回ぐらいは、早朝に歩くことにしています。

歩くと、気持ちがいいので、自然に歌が、湧いてくるからです。

最近では、歩かなくても、ふと、歌が浮かんでくるので、その時は、すぐに、メモって残します。

その場その場での感情は、時間が経つといつの間にか薄れて、消えて行ってしまいうからです。



深まりゆく秋

美容院

二か月ぶりに髪を切り

鏡の中の母に会うなり

待ち合いで

聞こえる大きな泣き声に

耳ふさぐより目をば用じる

ふと見れば



いつもの神社に ちようちんの

花が ゆらゆら 秋祭り

運転手 ほこらに向かい

手を合わす

神社近くのターミナル

冷やかな秋の空気につまれて

思いしずかに朝焼けの空

指先が手袋してもかじかんで

秋をどび越し冬は冷たさ

稲の穂は

実る速さが 違うとも

日にちが経てば 同じ高さよ

もみじ景が 神社の柱に あかね色



こちらにお出でと 呼んでいる朝

この道を 歩いてばかりもいられぬし

元氣を出して 走り出すなり

空の表情

空は いつもその表情を変えます。

太陽に照らされた今朝の空は、また、格別に美しく見えました。

今日が一番美しいと、その度ごとに思えるのはきっと、その時が最後になってもがっかりしないためなのでしょう。

天にお任せ
夢や希望や 心配事も
沢山ありはするけれど
未来は天にお任せで
生きて行こうと 決めている



足もとに

落ちたる小さな実がひとつ



いつもは気づかぬいちぢくの本

あきらめる

心は弱さにあらずして

運命を天に任せることなり

まっすぐに歩いて 向かうこの道が

つきることなく 見ゆる 今日の日

慣れぬ道

思わぬところで間違えて

リターンしながら汗をかき

高架橋ぐぐりてひそかに思うたは

まことにこの地で暮らすのか

ぶらぶらと

気の向くままに歩いては

胸の高鳴る百貨店

さんぽ道

今日はゆっくり歩くんだ
心に決めて ドアを開けた
歌が浮かぶと 立ち止まり
メモに書いては 景色を眺める
そんなペースが ちょうど良い
人が見えるものに 往々気づかず
人が気づかぬもの見て 心動かす



ふうちゃんのうた集

著 者:あさの 風子

発効日:2015年10月22日



発 行:みつわばそこん教室

=お願い=

この製品の転載、転売は禁止されています

